

「主の十字架と復活の恵み」Ⅰコリント15：50－58 堀田修一 21・4・4

Ⅰ 主イエスは、2千年前の先週の金曜日に、私達の罪（憎しみ、恨み、うそ、悪口、陰口、汚れ、「神などいらない。自分の力で生きて行くという」高ぶり等）の為に、十字架で、ひどい苦しみを受け、死なれ、罪のない聖い血を流され、私達のすべての罪の贖い、償いを完了された驚くべき恵みを感謝しましょう。主の十字架の恵みの故に、自分の罪を神の前に認め、主イエスを救い主、主、神と信じる者に、すべての罪の赦しと永遠の命＝天国で初めていただく命ではなく、主イエスを信じた瞬間からいただく命、神を深く知り続け、神に永遠に愛され、神と永遠に交わる事が出来る最も幸いな命が与えられます。心から感謝します。

Ⅱ 主イエスは、私達の罪の為に十字架で死なれたままではなく、死に勝利し、三日目によみがえられたのです。2千年前の日曜日の朝に復活されました。人間の医学が、どんなに進歩しても、人間は、死んだ人を、復活させる事は決してできません。しかし、主イエスは、私達の罪の為に身代わりに死に、人間とされましたが、全知全能の神でもあられたので、死より強い力を持っておられ、死に勝利し、三日目に復活されました。今、天にもおられ、この礼拝の中にも臨在されています。

イエスは言われました。「わたしはよみがえり（十字架で死んだ後、よみがえります）です。いのちです。わたしを信じる者は死んでも生きる（地上では、死を迎えるが、天国に行き、世の終わりの主の再臨の時に復活する）のです」ヨハネ11：25。「死は勝利に呑まれた」Ⅰコリント15：54

「死よ。おまえのとげはどこにあるのか」15：55。「神に感謝します。神は、私たちの主イエス・キリストによって、私たちに勝利（復活の恵み）を与えてくださいました」15：57

Ⅲ 主イエスの復活の事実の出来事を示す御言葉「週の初めの日（日曜日）の明け方、マグラダのマリヤともう一人のマリヤが墓を見に行った。すると見よ、大きな地震が起こった。主の使いが天から降りて来て石をわきに転がし、その上に座ったからである。その姿は稲妻のようで、衣は雪のように白かった。その恐ろしさに番兵たちは震え上がり、死人のようになった。御使いは女たちに言った。「あなたがたは、恐れることはありません。十字架につけられたイエスを捜しているのは分かっています。ここにはおられません。前から言っておられたとおり、よみがえられたのです。さあ、納められた場所を見なさい。そして、急いで行って弟子たちに伝えなさい。『イエスは死人の中からよみがえられました。そして、あなたがたより先にガリラヤに行かれます。そこでお会いできます』と。いいですか。私は確かにあなたがたに伝えました。』彼女たちは恐ろしくはあったが大いに喜んで、急いで墓から立ち去り、弟子たちに知らせようと走って行った。すると見よ、イエスが「おはよう」と言って彼女たちに現れた。彼女たちは近寄ってその足を抱き、イエスを拝した。イエスは言われた。「恐れることはありません。行って、わたしの兄弟たちに、ガリラヤに行くように言いなさい。そこでわたしに会えます」マタイ28：1－10。

Ⅳ 主の復活の恵み

1. 今も生きておられる主イエスとの出会い。主イエスは、偏在（同じ時に、どこにでも存在する能力を持っておられる神。今、天で父なる神の右に座し、私たちの為に執り成して下されると同時に、この地上のどこにでもおられる）の神であられるので、この2千年、世界中の人々と出会って下さった。今日も、世界中で人々が、主イエスと出会っている。つまり、主を信じている人、復活の主に出会う人々が誕生している。これこそ主の復活が事実であることを証明している。※私も、皆さんも、復活の主、生ける主に出会って、あの日あの時にクリスチャンになった。それから今日まで、生ける主と共に、日々

歩んでいるのです。「主イエスは…天に上げられ、神の右の座に着かれた。弟子たちは出て行って、いたるところで福音を宣べ伝えた。主は彼らとともに働き、みことばを、それにとまなうしるしをもって、確かなものとされた」マルコ16：19-20。

「人の子（主イエス）は、失われた（神から離れている）者を捜して救うために来たのです」ルカ19：10。復活の主は、迷える羊である私達を捜して救って下さる素晴らしい羊飼い。

2. 私達が弱く、辛く、苦しい試練の時も、復活の生ける主は、私達と共におられ、慰め励まし支え、力と恵みを与えて下さる。「わたしの恵みはあなたに十分である。わたしの力は弱さのうちに完全に現れるからである」Ⅱコリント12：9

3. 重い病の人々にも、主を伝える人々を遣わし、主を信じる信仰を与え、その人を救い、この世で死を迎えても、主が待っておられる天国に行くことが出来る確実な希望に満たして下さる。

4. 世の終わりの主の再臨の時には、次の事が起こると約束されている。

「終わりのラッパとともに、たちまち、一瞬のうちに（主の栄光の姿に）変えられます。ラッパが鳴ると、死者は朽ちないものによみがえり、私たち（主の再臨の時に、地上に生かされているキリスト者）は変えられる（栄光のからだに）のです。この朽ちるべきものが、朽ちないものを必ず着ることになり、この死ぬべきものが、死なないものを必ず着ることになるからです」Ⅰコリント15：52-53

※証し：重い病の中で復活の主と出会い、救われた人＝Tさんの証し。奥さんは、ご主人の重い病の事を伝えられた時、目の前が真っ暗になり、神に祈るより、一家心中ばかりを考えた。彼女は、子どものころから教会には行っていたが、キリストとの明確な霊的な出会いを経験した事もなく、熱くも冷たくもない信仰生活を送っていた。自分が何かを求める時にのみ祈り、聖書を読むという生活だった。しかし、彼女は真剣に祈った。すると主の御言葉が、心に響いてきた。「一粒の麦（主イエス）がもし地に落ちて死ななければ、それは一つのみです。しかし、もし死ねば、豊かな実を結びます」と。彼女自身が復活の主と出会った。復活の主は、Tさんに救いの福音を伝える人を遣わされた。闘病中の人に、主を伝える人が語られた言葉：「主イエスが定められた時こそ、その人にとって最善の死の時です。死は終わりなどでは決してなく、キリストと一緒にいられる最高の幸せの始まりです」。Tさんは、「どうすれば救われるのか」と尋ねた。主を伝える人が答えた。「神に背いて来た罪を悔い改めて、主イエスを私の神、主として受け入れる事です」。Tさんは、自分の背きの罪を告白し、主を信じた。表情は穏やかなものとなり、「死は終わりではなく、天国でキリストと一緒にいられる最高の幸せの始まりです」との言葉に素直にうなずかれた。この日からTさんは、愚痴を言わず、周囲の者を深く思いやり、すべてのことに感謝する生活に変えられた。天に召される前に家族に残された手紙＝長男への言葉「父親を亡くした君の人生は平坦ではないが、主に頼って生きれば素晴らしい人生が与えられる。また天国で会おう」。次男へ「君の父は召された。君は九歳。どんなにいやなことがあっても、やり通してくれ。君にはできると信じている。天国でまた会おう」。妻へ「私は、あなたと巡り会えた事を感謝します。深く深く、永遠に感謝します。そのように計画された主に感謝を捧げます。私に信仰を植えつけてくれたことを、あなたに感謝します」

イースター（復活祭）礼拝の中で、主の十字架の恵みと主が死に打ち勝ち復活され、今、私達と出会い、私達と、苦しい時も、いつでも、共にいて支えて下さる恵みを心から感謝し主を伝えて行きましょう！